

炎のエスキース・残照編（二〇一六）より

非戦

小林守城

朽ちゆく木の葉のひかり  
ほじくりながら見上げれば  
全山意地焼けており  
茜たつ孫の声

じーじー まあだだよ

血を吹きてうづくまる

ふるさとの道の狸も

死ねばみなことばになりて

親子丸腰の非戦

じーじー まあだだよ

風の連れてゆくところ

芒の穂の夕暮れ

生ぐさき身をこがし

歳月が焼けるまで

ひとはまだことばになれない

つがい  
番の庭

ひよせり  
鴨よ

いつも番でとんできて騒いでいる

きよろきよろしながら 餌を啄む

交代で見張りをしながら 餌を啄む

どう見ても どう聴いても

鳥の言語でしっかり話しているな

遠慮しなくていいんだよ

警戒しなくていいんだよ

人はそんなに悪くはないんだ

瓢然と飛び立つ発条ほねはなんなのだ

どこからきて何処へ行くのだ  
鳥の自由よ

番を始めてまもなく半世紀  
私たちの番の庭では殆ど喋らず  
病気でもないのに独りごととして  
すでに何やら症候群だ

こんな生きものの癖くせを

勝手に省いてしまってきたな

硬膜外のブロック注射

送り送られどちらが先か

せめて同行二人といこう

栃木の与倉ペインクリニック

### 観音さまの前で

とてもいい顔の観音さまを  
母校の中学校の裏山で発見した。

鎌倉時代の五輪の印塔を

北茨城から調査にきた

歴史・民俗の先生ご夫婦を案内した時

その印塔の脇に坐している

立て膝の観音さまに気付いたのだ。

やさしい顔してますね。

メモや写真を撮り終えた先生ご夫妻と

荒れた観音堂周辺から下りてくる時

石段の中腹から学校の北側の屋根に

芒の群生が見えてしまった。

風流とは言っではいられませんね。

そして想い出さざるをえなかった。

それとなく分かっていたのだが

昼休みタバコや自慰のやり方を

悪びれた級友から知らされたことなど

苔むした観音さまの前だったのだ。

それは五〇年近く前の事。